

⑨鞍馬小路

荷物を運搬する馬の鞍も山口名産として知られ、工房がここにあったのかもしれない。現在県道 204 号となっている場所にかつて存在した三階屋の北側の小路で、今の歩道あたりだったようです。

⑩人馬所

下豎小路西側、鞍馬小路のつきあたりに目代所という役所がありました。藩の公用のために往来する役人や、他藩の使いの者が利用する人夫や馬、駕籠などを用意しておく役所で、絵図では「人馬所」とあります。天保（1840年頃）の記録によると瓦葺で、伝馬 28 頭、人夫 22 人とあります。

⑪御高札

豎小路の南端、萩往還と石州街道の交差点に、法令などを広く周知させるため、木の札に書いて掲示した高札場がおかれ、「札ノ辻」と呼ばれました。人通りが多い場所だったことが窺えます。明治になってからしばらく県庁の公告所が置かれていました。

⑫笠着堂

米屋町の北側にあった連歌堂。山口祇園会の際、毎夜ここで連歌会が開かれ、つくられた七百韻の連歌懐紙は御還幸の神輿にかけて奉納されました。大内時代山口は連歌の一拠点で、江戸時代にも連歌愛好の風は受け継がれ、町衆の間で親しまれました。

⑬新道

安部橋付近から屋形南門に通じる道路が新たに敷かれました。

近世山口の特産品

江戸時代の山口でも様々な産業が発展し、振興策も試みられました。

山口木綿は質がよく、大坂市場で珍重された人気商品でした。木綿織物業が山口の基幹産業だった時期があり、道場門前の豪商安部家は木綿の集荷・販売も手掛けました。

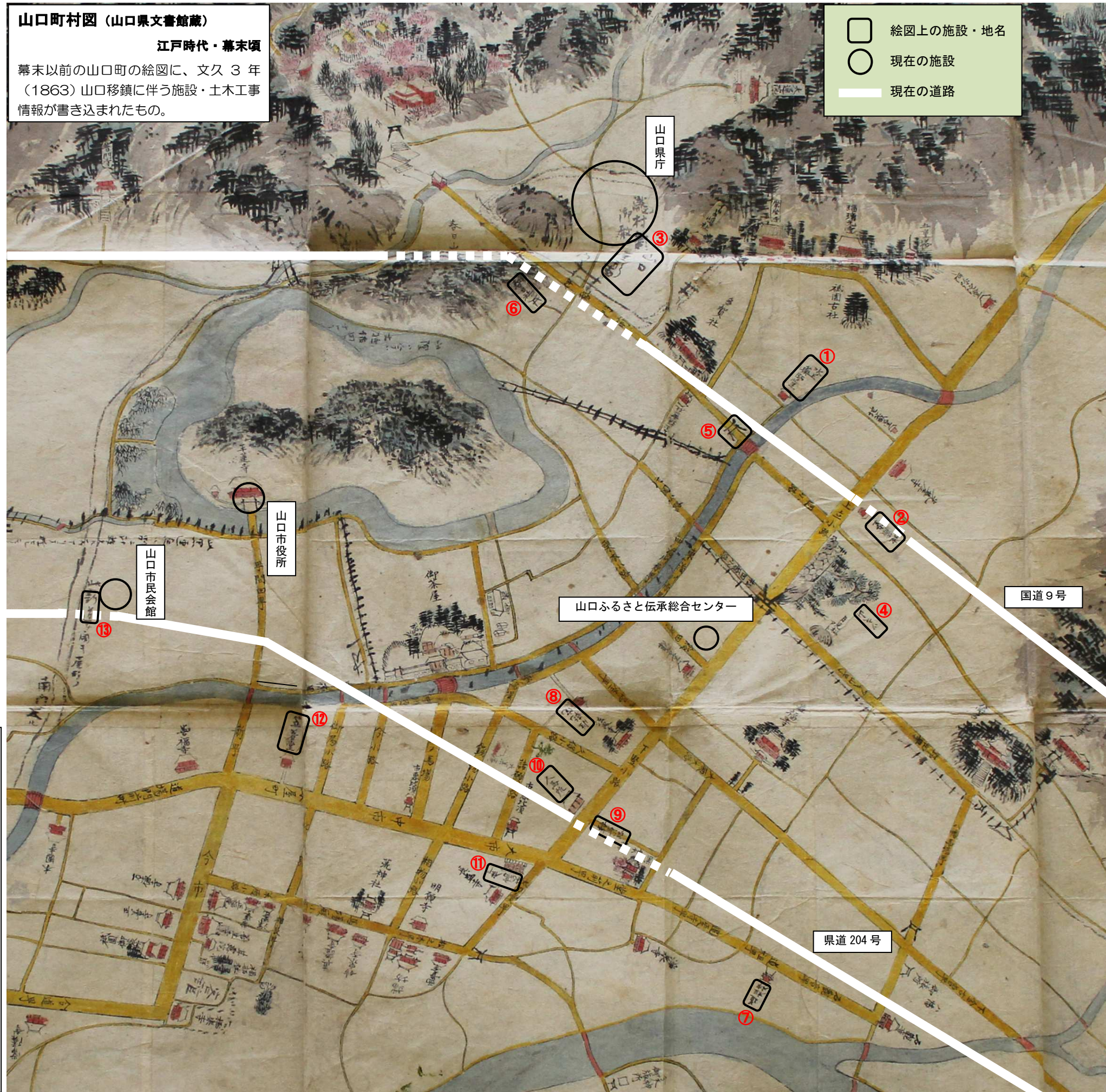
後河原町は「山口椀」と呼ばれる製品の一大生産地で文化 13 年（1814）には椀屋が 60 軒ほどあり、いかなる椀の生産も可能だったとか。

大内時代まで遡る歴史をもつといわれた下豎小路のつるし柿は、毎年藩公に献上され、京都でも好まれていたといえます。

山口町村図（山口県文書館蔵）

江戸時代・幕末頃

幕末以前の山口町の絵図に、文久 3 年（1863）山口移鎮に伴う施設・土木工事情報が書き込まれたもの。



①水ノ上薬師堂

山口七薬師のひとつ。水上寺の古跡と伝えられます。

②地藏堂

大内弘直（?～1336）が彫ったといわれる地藏菩薩は、政弘の代に一の坂に祀られ、のちに銀山の祈願所に。大火の際この地に飛来し、お堂に祀ったと伝えられます。国道 9 号開設に伴い、南側歩道そばに移されました。

③山口屋形

藩主毛利敬親は文久 3 年（1863）本拠を萩から山口へ移し（山口移鎮）、元治元年（1864）この地に山口御屋形（藩主御殿）が竣工。敬親は慶応 2 年（1866）ここに移り住み政務を執りました。

④ツキ山（築山）

今の八坂神社・築山神社境内、料亭菜香亭跡地一帯は大内教弘（1420～65）の頃に造営された別邸築山屋形の跡で、大規模な庭園があったと伝えられます。発掘調査により大内氏館跡につぐ規模の堀がみつかりました。宝暦末（1764 頃）までは大内時代からの大松があり、天明 2・3 年（1782・83）頃には四方を竹藪に囲まれ、一部を切り開き池を埋めて畑にしたといえます。築地の石垣は幕末、山口新御屋形（山口城）の石垣に転用されたと伝えられます。

⑤鳥居

山口大神宮に通じる伊勢橋のたもとに石鳥居がありました。寛文 3 年（1663）藩主毛利綱広より寄進されたもので、昭和 35 年道路拡幅に伴い大神宮石段正面に移されました。

⑥春日社

天文年間（1532～1555）大内義隆が創建したといわれ、慶応 3 年（1867）八幡馬場に移され、現在今八幡宮境内に八柱神社として祀られています。

⑦道祖神

大内氏の祖・琳聖太子（611 年来朝）が創建したと伝えられます。町名の由来となり、交通安全の神様として親しまれてきました。

⑧性乾院

かつて浄土寺と号し、長山城番をつとめた三浦元忠（1596 没）の香華所となり（1613 年）、その法名により性乾院と改号。馬場殿小路の九品寺が嘉川へ移り、明治 4 年その跡地に移りました。